

学校評議員会の実施報告書

ホームページへの掲載	
済・未	7月6日掲載予定

岐阜県立関特別支援学校

校長 佐藤 秀樹

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目2番地

電話 (0575) 22-4238

- 1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成 **【 学校評議員 】**
澤井 基光 関市社会福祉協議会会長
沼田 明仁 四季ノ台自治会長
岡田 泰子 中部学院大学短期大学部准教授
大野 美奈子 社会福祉法人平成会レインボーハートフルサービス管理責任者
(今回欠席)
中島 貴弘 Man to Man Animo 株式会社プロジェクトマネージャー

【学校関係者評価委員】
後藤 香 PTA会長

【 学校職員 】
佐藤 秀樹 校長 熊崎 律弥 小学部主事
福富 茂美 教頭 堀 英男 中学部主事
小森 正尚 事務部長 上浦 清彦 高等部主事
井原 誠 教務主任
- 3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成29年6月26日(月) 10:00~12:00
岐阜県立関特別支援学校 小会議室
会の内容(主な議題等)
(1) 授業参観
(2) 校長挨拶(学校評議員委嘱)
(3) 出席者自己紹介
(4) 平成29年度の教育計画及び各学部の取組について
(5) 高等部作業学習製品の販売価格について
(6) 授業参観の感想や関特別支援学校についてのご意見等
(7) その他
- 5 会議の概要
校長挨拶
評議員の皆様のご意見をお聞かせいただき、学校運営に活かしていきたいと考えています。

テーマ1 平成29年度の教育計画及び各学部取組について

(1) 学校の教育目標、学校経営の方針について（校長）

- ・岐阜県の現状としては、「子どもかがやきプラン」において目標としていた20校体制が完成した。ハード面での整備が終わり、今年度から「新子どもかがやきプラン」がスタートした。新プランの3つの重点政策として、①高等特別支援学校の整備、②発達障がいのある児童生徒への支援、③教員の専門性の向上の3点が挙げられている。1年ごとにアクションプランを策定して、具体的に施策を進めている。
- ・当校では児童生徒数が減少しているが、肢体不自由教育の伝統を核にしながら目の前の児童生徒の自立と社会参加を目指していきたい。創意ある教育実践を大切にするため、「授業を芸術的に」というスローガンを掲げている。また、当校の校章にデザインされている「さんごし」の花言葉のように、子どもたちと共に「希望」を語り、「誠実」に学び続ける学校を目指していきたい。
- ・教育目標を実現するための3つの柱として、①オーダーメイドの教育の推進（個に応じた指導の充実）、②インクルーシブ教育の推進（交流及び共同学習、居住地校交流の推進）、③キャリア教育の推進（小中学部から高等部までの系統性のある支援）を掲げている。また、そのための手だてとして、児童生徒の自己有用感の育成、コンプライアンス意識を身に付けた専門性の高い教員の育成に取り組んでいる。

(2) 自校評価・学校関係者評価について（平成29年度に向けての改善策）

①学習活動・家庭や地域等との連携

- ・病弱の児童生徒を考慮に入れ、「個別の指導計画」の実態表を見直す。
- ・情報担当の職員を増やし、授業での活用を広げる。

②安心・安全な学校生活

- ・訓練を通して、危機意識を高める。
- ・ヒヤリハットを全校に周知し、アクシデントを未然に防止する。
- ・児童生徒会活動等を通して、温かい人間関係に基づく居場所づくりを行う。

③キャリア教育

- ・病弱の児童生徒の「個別の教育支援計画」を充実させる。
- ・小中学部から高等部を通した一連のキャリア教育を充実させる。

(3) 小学部、中学部、高等部、寄宿舎の児童生徒の状況、指導の重点、課題等について

①小学部

<重点>

- ・児童、保護者のニーズを踏まえた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者間で共通理解と連携を図りながら、一人一人に応じたきめ細かな指導・支援を推進する。
- ・家庭及び医療機関等と連携して健康管理を図り、健康で安心・安全な学校生活作りを推進する。
- ・体験的な学習や交流学習等を通して、自らの力を十分に発揮し、生き生きと活動する児童を育成する。

<課題>

- ・一人一人の学習課題を明確にする。
- ・適切な学級編制や学習集団を編制する。
- ・授業改善を行い、成果を蓄積する。

②中学部

<重点>

- ・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者が生徒一人一人の発達課題や学習課題を明確にした支援・指導を推進する。

- ・関係者の共通理解と共通認識を図り、健康で安全な教育環境の整備を推進する。
- ・様々な体験活動を通して、将来の社会参加、自立に向けた進路教育を推進する。

<課題>

- ・生徒数減少に伴う教育活動の見直しを行う。
- ・生徒の重度化・多様化に対応する。
- ・小学部や高等部との円滑な指導の引継ぎを行う。

③高等部

<重点>

- ・豊かな心をもち、自ら学び、主体的に行動する生徒を育成する。
- ・日常的な健康管理や医療的ケアを基に、健康保持に配慮した個別支援・指導を推進する。
- ・各種の社会体験を通じ、自己理解を深め、社会参加を目指した実践力を養成する。

<課題>

- ・実態に合わせて教育課程を見直す。
- ・進路支援を充実させる。
- ・交流及び共同学習を充実させる。
- ・魅力ある高等部づくりに取り組む。

④寄宿舎

<重点>

- ・自分で考え、主体的に行動できる自立心を育成する。
- ・心身ともに健康で、安心かつ快適な寄宿舎生活を支援する。
- ・互いに認め合い、協力できる態度を育成する。

<課題>

- ・舎生会活動を一層生徒の自主的な活動にしていく。
- ・関有知高等学校家庭クラブとの交流をさらに充実させる。
- ・日本の文化や伝統を大切にしたい取組を工夫する。
- ・生徒一人一人の自立に向けた支援を、学校活動と連携して行う。

テーマ2 高等部作業学習製品の販売価格について

- 意見1 価格は安く設定してあるが、生徒に分かりやすい価格になっている。自分たちが作ったものが売れることはうれしいことである。
- 意見2 収益を上げることが目的ではなく、作ったものを販売してお客さんの反応を見てフィードバックするというプロセスが大切である。

テーマ3 関特別支援学校についての意見等

- 意見1 障がいが多様であるが、一人一人に応じた支援がなされている。また、今必要な支援だけでなく、これから必要となることを見据えながら取り組んでいる。
- 意見2 一人一人のオーダーメイドの教育を工夫し、児童生徒の力を引き出している。まさに、可能性は無限であると感じた。特別支援教育の特色は、保護者、職員が一体となり、長いスパンで子どもたちを見ていくことである。継続して見ていくことが大切であると改めて思った。
- 意見3 授業を参観し、子どもたちは幸せだと思った。マンツーマンで丁寧に支援していることが伝わってきた。子どもたちがいい顔をしている。障がいが多重度化しているだけに、身辺自立の支援が大切となる。卒業後を見据え、身辺自立をして地域や社会の中で暮らせるようになることが大切である。社会に出た後は、マンツーマンで支援を受けることは難しいが、楽しく生きられるように支援していきたい。
- 意見4 授業を参観し、一対一の関係のなかで教師が親身に支援している姿がすごいと思った。当たり前のようにやっていることがすごい。たいへんな仕事であることが身に染みて分かった。

身体をほぐす場面をたくさん見たが、学習前に身体の準備が必要であることが分かった。なかには歩けるようになるなどの進歩も見られ、日頃の身体へのアプローチが地道になされることの大切さを知った。何気ないことも普通にできることの有難さに気付かされた。

意見 5 この学校に11年間通わせてもらっている。学校では先生たちからいい子だと言われているが、家ではそれが見えない。高等部2年だが卒業後に就職できるか心配である。学校では本当によくやってもらっているのもっと気付いてしっかりやってほしいと思った。寄宿舎ではしっかりやっているが家では体調管理も含めて甘えている。

学 校 学校や寄宿舎では本当にしっかりやっているのも、家では甘えてもいいのではないのでしょうか。本人は使い分けてやっていて、就職に向けても頑張っていけると思う。

6 会議のまとめ（校長より）

当校の教育活動に高い評価をいただくとともに、特別支援教育にも深いご理解をいただき、ありがとうございました。ご意見にもありましたように、卒業後の生活を見据えた支援の重要性を改めて確認することができました。今後も専門性の向上を図り、教育活動を充実させていきます。

※今回の学校評議員会の内容について、当校のホームページに掲載させていただくことを全出席者から了解を得た。